



【編集・発行/札幌くらぶ】 064-0931 札幌市中央区中島公園1-15 札幌交響楽団事務局気付
メール: info@sakkyoclub.net
ホームページ: http:sakkyoclub.net/sakkyoclub/

2013.4

62



平成25年度札幌くらぶ総会開催のお知らせ

平成25年度札幌くらぶ総会及び
交流会を左記のとおり開催いたし
ますので、お知らせいたします。

総会の出欠、交流会の参加につ
いては、この記事とほぼ同文の文
書と一緒に同封しましたハガキ
(切手不要)にてご連絡ください。
また、ホームページでも総会開催
のお知らせをしております、メールで
ご連絡いただいた場合は、ハガキ
での連絡は不要です。

ハガキで連絡いただく際、出欠
にかかわらず、「出欠・委任状署
名」の氏名の欄にご署名「マスタ
ー会員1名のみ」、会員Noの欄に会
員番号(封筒の宛名シール右下に
記載しています)を記入ください。
また、欠席の場合は委任状に対す
る署名として取り扱います。
委任されない場合は、委任状
にXをしてください。

日時 平成25年5月18日(土)

1. 総会

場所 北海道立文学館B1

講堂

時間 12:00~14:00まで

2. 交流会

場所 テラスレストラン・

キタラ

時間 17:30~19:30まで

会費 お1人 3,000円

3. 文学館会場案内

所在地 札幌市中央区中島公園

1番4号

TEL 011-511-7655

地下鉄 地下鉄南北線「中島公

園」駅(出口3番)下車徒歩

6分「幌平橋」駅(出口1番)

下車徒歩7分

路面電車 札幌市電「中島公園

通」駅下車徒歩10分

バス

中央バス 西岡平岸線79・羊

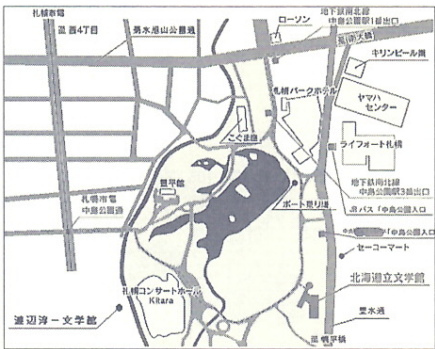
ヶ丘線89「中島公園入口」下

車徒歩4分

JRバス 山鼻線 循環啓55

・56・65・66「中島公園入

口」下車徒歩4分



この案内図は、北海道立文学館ホ
ムページより借用いたしました。

第2回札幌くらぶサロン開催

札幌くらぶ今年度
の新規事業「札幌く
らぶサロン」の第2
回目が、3月9日
(土) 16時から狸小
路7丁目の名曲喫茶
「ウィーン」にて竹
津宜男さんのトーク
による「札幌アーカ
イブシリーズ」Vol.2
として開催されまし
たので、その様子を
ご報告致します。

当日は、3月に入っ
たといえ春間近か
にはほど遠く猛吹雪の一日でした。
そんな中、第1回目と同じ29名の
方にご参加いただきました。この
中には、札幌コンサートホールキ
タラを設計された(株)宮部代表の宮
部光幸さん、定期演奏会「プレト
クでお馴染みの北海道作曲家協会
会長の八木幸三さん、札幌元コン
トラバス奏者の藤澤光雄さんもご
参加いただきました。

演奏曲が終わった後に、音源の
会場の拍手とサロンの会場の拍手
が重なり心地よく響き渡ったのも
第1回目にはなかった事でとても
感動しました。



札幌の往年の名演を聴き入る参加者の皆さん

休憩後の後半は第144回定期
(1974年12月10日)からテオ
ドール・グシユルバウアー指揮に
よるモーツァルトの交響曲第41番
ハ長調「K417」ジュピター全曲。
今回は「想い出の札幌交響楽団
演奏会」という竹津さんオリジナル
の資料が配られ、それをもとに
お話が進められていきました。特
に今回の2曲については、チェリ
ストのフラシヨールさんはチェロの
先生として有名なのですが、さら
にレコーディング嫌いという事も
有名であり、この曲の演奏は世界
でこれしか録音が残っていないで
あるとういう貴重なものでした。

今後の予定ですが、今年度4月
以降は年4回開催を予定していま
す。竹津さんをナビゲーターに札
響定期演奏会の第1回開催から順
を追って名演奏やエピソードのあ
る演奏会を中心に振り返っていき
ます。その他に新企画として「名
演奏リクエストコーナー」「指揮
者別や年代別の同じ曲の聴き比べ
コーナー」「皆さんが語る名演奏
の想い出」等々、皆様のご意見を
いただきながら楽しいサロンを目
指していきます。これからも沢山
のご参加をお願い致します。

まず初めに司会役の朽木尚明さ
んからプログラムの案内がありま
したが、実際に使われた演奏曲は
次の通りです。
前半は札幌交響楽団第115回
定期(1972年4月25日)から
ペーター・シユヴァルト指揮によ
るシューマンのチェロ協奏曲イ短
調Op.129(チェロ・レーヌ・フ
ラシヨール)全曲。

後半は、実際に使われた演奏曲は
次の通りです。
前半は札幌交響楽団第115回
定期(1972年4月25日)から
ペーター・シユヴァルト指揮によ
るシューマンのチェロ協奏曲イ短
調Op.129(チェロ・レーヌ・フ
ラシヨール)全曲。

後半は、実際に使われた演奏曲は
次の通りです。
前半は札幌交響楽団第115回
定期(1972年4月25日)から
ペーター・シユヴァルト指揮によ
るシューマンのチェロ協奏曲イ短
調Op.129(チェロ・レーヌ・フ
ラシヨール)全曲。

(上野)

札幌事務局と札幌くらぶとの意見交換会

2月25日(月)札幌パークホテル4階清流で、午後6時から札幌事務局と札幌くらぶで意見交換会を開催しました。意見交換会の趣旨として札幌と市民をつなぎもつと支援の輪が大きくなること。「理解のある市民の輪」を大きくしたいと考えています。札幌からは宮澤事務局長、小松事務局次長、宮下事業部長、庄司総務部長の4名、札幌くらぶからは西川副会長、武藤事務局長、井上事務局次長、定政事務局次長、中居会計担当、上野スタッフ、鷺頭スタッフの7名が出席し、西川副会長が司会進行役を担当して約2時間半、意見を交換することができました。主な内容は次のとおりです。(事務局長 武藤義典)

札幌のボランティア活動の広報に協力を!

○西川副会長(札幌くらぶ)
意見交換会の進め方として、お手元のレジュメのとおり何点かテーマを設定しました。札幌さんからも出していたでいて、交互に話を進めていければと思っております。

最初に一つのテーマとして、コンサートを聴いた感想とか、札幌や楽員さんのコンサート情報を会報やホームページで市民との間をつないでいきたいと考えています。その趣旨について武藤事務局長から提案させていただきます。

○武藤事務局長(札幌くらぶ)

ホームページで札幌の演奏会、札幌くらぶ会員はじめ楽員さん個人の演奏会をコンサート情報として掲載していますが、情報収集はもっぱら個人からの提供、キタラ

いただいたりしていますが、楽員さんが知らなかったとお話を多く聞きます。他に楽員さんに周知する方法があればご協力いただければと思っています。

○宮澤事務局長(札幌)

まず、楽員個人のコンサートまで周知していただいていることにお礼申し上げます。

でのチラシの収集などが主体です。これに札幌さんからの情報提供のご協力があればもつと内容が豊富になると思っています。

それと、札幌くらぶ会報の掲載内容ですが、以前はインタビュー記事が中心でしたが、最近は会員やスタッフの記事を中心に紙面を構成しています。ここに新入団のインタビュー記事などの一部を再開したいと考えておりまして、事務局のご協力をお願いしたいと思っております。

あと、レジュメには入っていないのですけれど、最近交流会(の楽員さんの参加が少なくなってきた)があります。楽員さんに対する交流会開催のお知らせは、会報に記事掲載したり、チラシを折り込んだり、ポスターを楽屋に掲示して

は楽員が自主的に実施しています。

市民に溶け込もうと札幌はボランティア活動も行っています。年間120回の演奏会、練習も含めると290日ぐらいい働きの、残りの60、70日が休みですが、この休みを使ってボランティア活動をしています。「教育への参加」は、次の世代の音楽家や音楽愛好家を作るために子供たちに音楽に興味を持たせたい、という考え方で活動しています。札幌くらぶも市内の生徒を定期演奏会に招待する事業

をされていて、平成24年度は総勢500名の生徒がくらぶの招待によつて来場されたと聞いています。若者を演奏会に招待することはすぐに成果が上がることではないかもしれませんが、次の世代につながる活動であり、これからのグローバル化に向けて文化で会話できることは大切だと思っています。

○武藤事務局長(札幌くらぶ)

札幌のボランティア活動もホームページで紹介したいと思っておりますので、楽員のコンサートの情報とあわせて情報提供をお願いします。

○宮澤事務局長(札幌)

その情報は、いつでも写真など提供できる状況にあります。こういうこともやっていますよ、ということを通じて市民の皆様を紹介していただきたい。写真も入れて、コメントを付けていただいで、ああ札幌

○武藤事務局長(札幌くらぶ)

学校で札幌メンバーのワークショップに参加した児童が、その翌年Kittaraファーストコンサートに来場し、終演後に会っ

○武藤事務局長(札幌くらぶ)

年2回ほど交流会を開催しますが、最近、楽員さんの参加が少なくなつてきています。楽器を持ってきているので車で来る方が増えてきているのもあると思います、ノンアルコールビールを用意して、車で

○宮澤事務局長(札幌)

今この札幌にはそれがいい。私の方もこんなことがしたい、

しい。この間、小松が楽員たちによるワークショップに行つて、見たことを話してもらいます。

○小松事務局次長(札幌)

札幌のオーケストラ以外の「音楽教育」には、各種学校に行つての音楽教室ワークショップ、吹奏楽部の生徒たちの指導などがあるのですけれど、札幌のワークショップは、Kittaraファーストコンサートに来る前の5年生の子供たちを対象にしています。

数人で行くのですが、楽員はお

しゃべりの専門家ではないのに、一生涯命子供たちに話しかけますので、子供たちがどんどんワークショップにのめり込んで来てくれます。

○武藤事務局長(札幌くらぶ)

また、養護学校では、年齢幅もあり、障がいの幅も広いので難しいところもあるのですけれど、かつて子供たちの集中力がすごく、どんどん前に出てきて、ポニョの

○宮澤事務局長(札幌)

楽員さんが知るためのいい方法がないでしょうか。

○武藤事務局長(札幌)

自分

○宮澤事務局長(札幌)

今この札幌にはそれがいい。私の方もこんなことがしたい、



小松事務局次長(札幌)

た楽員に挨拶をしたいと楽屋に集まってくることもあります。楽員の中にも子供のころ学校コンサートで札幌の演奏を聴き、感動して音楽を志すようになった、そして入団した者もいます。

また、養護学校では、年齢幅もあり、障がいの幅も広いので難しいところもあるのですけれど、かつて子供たちの集中力がすごく、どんどん前に出てきて、ポニョのテーマと知っている曲を演奏すると踊り出してきたり、音楽の原点が見え、楽員も感動します。

交流会にもつと楽員さんの参加協力を!

○武藤事務局長(札幌くらぶ)

自分

○宮澤事務局長(札幌)

今この札幌にはそれがいい。私の方もこんなことがしたい、

○武藤事務局長(札幌くらぶ)

あんなことがしたいと、色々なアイデアを携えて相談にいきますの

楽譜支援は7年になる！

〇西川副会長（札幌くらぶ）
続いて二つ目のテーマに移ります。札幌くらぶが楽譜支援という寄付を始めてから7年になります。原資には年会費のうち500円と会員からの追加支援寄付を充てています。この追加支援寄付ですが、最初は7〜8人だったのが今では150人を超えております。これは自分が直接札幌を支援していると感じてくれるからだと思えます。札幌くらぶとしては、このことをもっと定期会員や市民の方々に知っていただきたい。そこで提案ですが、定期プログラムの演奏曲の末尾に「この曲の楽譜は札幌くらぶの支援で購入しました。」

で、よろしくお願ひします。
などと表示していただけるともっと支援の輪が広がると思えます。

〇宮下事業部長（札幌）
これまで年度末に頂いていたことから、その年度に購入した楽譜から当てはめた形で使用内訳を報告していましたが、新年度からは、これからの演奏会で使用する楽譜に充てていくということになれば、プログラムに「何々の曲の楽譜は、札幌くらぶの支援で購入しました。」と書けます。

〇武藤事務局長（札幌くらぶ）
これまで何となく年度末近くになってしまっていました。新年度からは7月か8月、遅くとも9月までにお渡しできるようにいたします。

〇西川副会長（札幌くらぶ）
エピソードになると思いますが、

〇西川副会長（札幌くらぶ）
三つ目のテーマです。定期会員の拡大をどうしたら成果が上げられるか、札幌くらぶとしても大きなテーマで、口コミやいろいろなやつている割には、余り成果が上がっていない。何かいいツールがあるといいかなと、格安チケットとか。定期会員の拡大は、口コミ

定期会員を増やすにはどうしたらいいのか！
が一番だと思うので、口コミ+αとして支援だけではないでしょうか。

〇庄司総務部長（札幌）
今おっしゃったのは、2月定期の3,500円のチケットのことだと思えます。これは定期会員の更新や新規募集の時期で、一度聴いていた上で入会いただけたら、と

〇宮澤事務局長（札幌）
割引チケットを出すときは、慎重に行っていききたい。長い間札幌を支援して下さっている定期会員、パトロネージュ会員に失礼にならないようにしていきたい。2月定期において割引を行ったのは、来季シーズンの定期会員募集に合わせキャンペーンとしておこなったものであり、その旨をご理解いただきたい。

〇井上事務局次長（札幌くらぶ）
外国のオーケストラのチケットは、今でも高い。札幌の演奏を楽しめるようになった今、あえて外国のオーケストラの演奏に高いチケットを買って、わざわざ聴きたいと思わない。

〇宮澤事務局長（札幌）
その昔、外国のオーケストラがきて、チケットが1万何千円。本物を聴きたいと一生懸命積み立てして聴きにきました。しかし、今は外国のオケではなくて、札幌で満足していています。

〇井上事務局次長（札幌くらぶ）
その昔、外国のオーケストラがきて、チケットが1万何千円。本物を聴きたいと一生懸命積み立てして聴きにきました。しかし、今は外国のオケではなくて、札幌で満足していています。

〇庄司総務部長（札幌）
発案は別々でした。私たちがキタラも若い人に聴いて欲しいという気持ちは持っていたのです。学生も含めた若い人に聴いてもらいたい、と発案し、キタラに話しましたところ、キタラも同じことをしようとしていた、ということで、一緒にやろうということになりました。

〇中居会計担当（札幌くらぶ）
定期のチケットに関して、札幌とキタラでアンダー25というのがありますが、共同企画ですか。

〇中居会計担当（札幌くらぶ）
定期のチケットに関して、札幌とキタラでアンダー25というのがありますが、共同企画ですか。

〇中居会計担当（札幌くらぶ）
定期のチケットに関して、札幌とキタラでアンダー25というのがありますが、共同企画ですか。

〇中居会計担当（札幌くらぶ）
定期のチケットに関して、札幌とキタラでアンダー25というのがありますが、共同企画ですか。

〇中居会計担当（札幌くらぶ）
定期のチケットに関して、札幌とキタラでアンダー25というのがありますが、共同企画ですか。

〇中居会計担当（札幌くらぶ）
定期のチケットに関して、札幌とキタラでアンダー25というのがありますが、共同企画ですか。

〇中居会計担当（札幌くらぶ）
定期のチケットに関して、札幌とキタラでアンダー25というのがありますが、共同企画ですか。

〇中居会計担当（札幌くらぶ）
定期のチケットに関して、札幌とキタラでアンダー25というのがありますが、共同企画ですか。

〇中居会計担当（札幌くらぶ）
定期のチケットに関して、札幌とキタラでアンダー25というのがありますが、共同企画ですか。

〇中居会計担当（札幌くらぶ）
定期のチケットに関して、札幌とキタラでアンダー25というのがありますが、共同企画ですか。

〇中居会計担当（札幌くらぶ）
定期のチケットに関して、札幌とキタラでアンダー25というのがありますが、共同企画ですか。

〇中居会計担当（札幌くらぶ）
定期のチケットに関して、札幌とキタラでアンダー25というのがありますが、共同企画ですか。

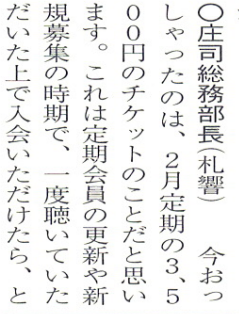
〇中居会計担当（札幌くらぶ）
定期のチケットに関して、札幌とキタラでアンダー25というのがありますが、共同企画ですか。



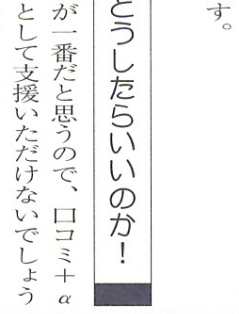
西川副会長（札幌くらぶ）



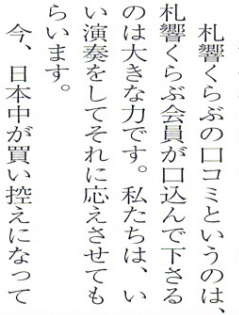
宮下事業部長（札幌）



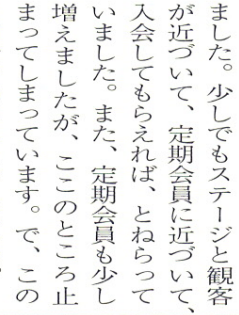
武藤事務局長（札幌くらぶ）



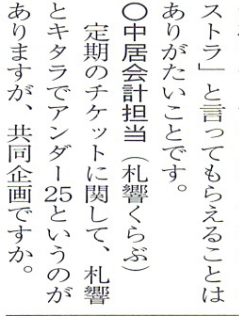
庄司総務部長（札幌）



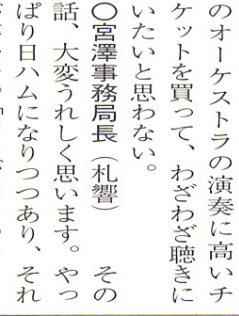
宮澤事務局長（札幌）



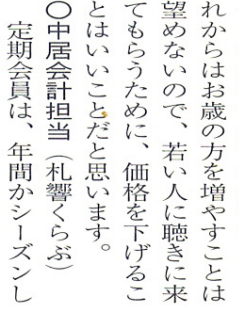
井上事務局次長（札幌くらぶ）



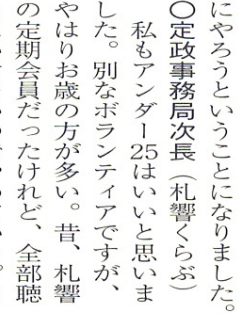
庄司総務部長（札幌）



中居会計担当（札幌くらぶ）



中居会計担当（札幌くらぶ）



中居会計担当（札幌くらぶ）



中居会計担当（札幌くらぶ）



中居会計担当（札幌くらぶ）

かありませんが、好きな演奏会だけをピックアップして、年間5つを選んだら割引料金にするとか、というのは難しいですか。

○宮下事業部長（札幌） 今の札幌ではやっていませんが、やるとしても定期会員の様に年間またはシーズン通して同じ席とはならず、毎回ばらばらの席になってしまふので、定期会員の様なメリットを持ってもらうことは難しいと思います。

札幌は、札幌を支えたいと考えると長年支援してくれた定期会員の方々を大切に考えたい。

○宮澤事務局長（札幌） この間、うちのメンバー4人が韓国テジョン・フィルに出演しましたが、韓国では若い人が多く聴きにきている。迷彩服の兵士が多く、彼らは自前でチケットを手に入れて来ているという。若い人がきてくれるような広報をしているらしい。

○庄司総務部長（札幌） テジョン・フィルの広報担当の話ですが、デートでクラシックコンサートを聴きに行くということがとても格好いい、という考えがある、小学

校、中学校の音楽の授業で聴きにくいなさい、聴いてレポートを書きなさい、ということがある、この現状と個別に広報をしている、ということから若い人が増えているそうです。

校、中学校の音楽の授業で聴きにくいなさい、聴いてレポートを書きなさい、ということがある、この現状と個別に広報をしている、ということから若い人が増えているそうです。

○西川副会長（札幌くらぶ）

定期会員の拡大というのは、これからも口コミという方法を重視しながら、会報などでことあるごとに会員に知らせていく、という基本的な活動が重要であるという

学校で札幌のCDを聴かせたい！

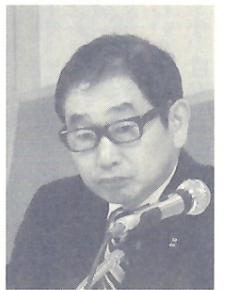
○西川副会長（札幌くらぶ）

最後のテーマに移ります。札幌くらぶ会長と札幌専務理事の対談で出てきた話ですが、学校の校内放送で札幌の演奏のCDを聴かせ、クラシックになじんでもらい、札幌を知ってもらおう、ということですが、いい「アイデア」ということで終わっています。これを実現するとしたらCD制作を含めて実現の可能性としてはどうでしょうか。

○宮下事業部長（札幌） 小学生の頃、給食の時間になったらクラシックがかかっていた、と専務が言っていて、上田会長がそれが札幌の演奏だったらしいね、という話でしたね。

○宮澤事務局長（札幌） 私はこれをどう取り扱ったかわからないのです。校内放送で札幌の

ことですね。 ○小松事務局次長（札幌） 以前、札幌はパトネージュ会員と定期会員の双方の会員である方に対し、特別なサービスを行っておりました。札幌が公益財団法人に認可されるにあたり、特別サービスの中止を会員に伝えたところ、全ての方に趣旨をご理解いただきパトネージュ会員として、そして同時に定期会員として継続の意思をいただきました。



上野運営スタッフ（札幌くらぶ）

え方を聞いて見るのも方法ですね。

○宮澤事務局長（札幌）

CDを制作することになりましたら、それは札幌が考えます。それなりのものを作ろうとしたら、費用がどれだけ掛かるかわからないので、まだ判りませんでしたと言えない状況

コンサート会場を和やかな、温かい雰囲気！

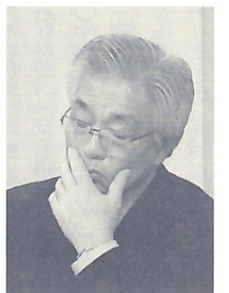
○西川副会長（札幌くらぶ）

さて、そろそろ時間がなくなってきました。札幌さんから提起したいことがあります。話してくださいます。

○宮下事業部長（札幌）

コンサート会場で、隣の人の香水が強いとか、体をゆらすとか、お近くにお座りの方の苦情を言われることが増えています。定期会員の

場合、隣は大体同じ人が多いはずなので、座ったら「こんばんは、終わったら「今日は良かったですね」くらいのおいさつをして、なごやかなムードが、温かい雰囲気



鷲頭運営スタッフ（札幌くらぶ）

です。

○西川副会長（札幌くらぶ）

そうだと思います。私たちが簡単に作れるとは思っていませんので、話題としてここに提起している次第です。これからも話し合いながら検討しましょう。

喜びをを素直に出し、感動を周囲の人と共有している雰囲気があります。札幌の演奏会でも、札幌くらぶが中心となってそういった雰囲気作りをお願いしたいし、それが周りに伝わってほしいなと思っています。

○西川副会長（札幌くらぶ）

本日は、長時間にわたり意見交換していただき、ありがとうございました。

この内容は、次の会報で報告させていただきますが、全て掲載することは紙面の都合もあり、叶わないと思います。 これからもお互い協力しあいながら、ともに発展していけることを願っています。

ご意見・ご感想をお寄せ下さい

会員の皆さんからの投稿をお待ちしております。

交流会や札幌演奏会の感想、クラシック音楽に関すること、随想詩、俳句や短歌など特に内容は問いません。この会報に関するご意見・ご要望をいただければ、次の会報からの編集の参考にしたいと思います。

投稿の期限はありませんが、6月30日までに投稿していただいた方の中から、抽選でプレゼントを差し上げます。なお、当選は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

投稿は、ハガキ、封書又はメールで、住所・氏名・会員番号（以上必須事項）・電話番号等連絡先を書き、「札幌くらぶ事務局」宛お送りください。（あて先は1ページ目のタイトル下にあります。）

なお、匿名での投稿は受け付けておりません。「ペンネーム」での投稿は、ペンネームとともに必ず本名も書き添えてください。

また、投稿いただいた内容について、不適切な表現がある場合は修正させていただくか、会報への掲載を控えさせていただく場合がありますので、ご了承ください。

（事務局長 武藤義典）

5月～7月の定期・名曲シリーズ 演奏会を楽しく聴くために

八木 幸 三 (札幌くらぶ会員)

第559回札幌定期演奏会

5月17日(金) 19:00

5月18日(土) 15:00

札幌コンサートホール大ホール

指揮/尾高 忠明

ティンパニ/武藤 厚志(札幌首席奏者)



尾高忠明(音楽監督)(写真:野口隆史)



武藤厚志(首席奏者)

ティンパニ/ティンパニ協奏曲

以前PMFでベルリン・フィルのティンパニ奏者ライナー・ゼーガースの演奏で、「J・ベックの「ティンパニのためのソナタ」を聴いた。音程を変化できる楽器の特性や特殊な奏法を駆使し、飽きを感じさせない独奏でティンパニという楽器の表現の豊かさに改めて驚嘆したが、今回はベルリン・フィルの元ティンパニ奏者

森の響フレンドコンサート
札幌名曲シリーズ2013 vol.1
「アラソフエスの夢」

ティンパニの協奏曲が聴ける。ゼーガースによれば、この曲はティンパニストにとっては試金石と見なされていて、特にカデンツァをはじめとする独奏部分ばかりの技巧が要求されると言う。

札幌首席打楽器奏者武藤厚志からどんなティンパニの妙技が聴けるのか楽しみだ。

ブルックナー/交響曲第7番ホ長調(ハイス版)

朝比奈、若杉亡き後、我が国のブルックナー指揮者は、尾高忠明ではないだろうか。札幌でも、近年5番、9番が彼の指揮で演奏されているが、特にクリスタルのような透명한響きが聴けた第4番は印象深い。尾高は、シューリヒトのブルックナー演奏に憧れ指揮者になり、彼の父高忠はブルックナーの第9番を半世紀以上も前に国内初演している。ワグナーを深く尊敬したブルックナーが、その思いを濃厚に込めた第7番を尾高が札幌を通してどう表現するのか、名演が期待される。

5月25日(土) 15:00
札幌コンサートホール大ホール
指揮/デリック・イノウエ
ギター/大萩 康司



デリック・イノウエ(写真:満田聡)



大萩康司

ヒナステラ/バレエ組曲「エストアンシア」

アルゼンチンの作曲家ヒナステラは、ヴィイローボス以後の中南米における重要な作曲家であり、同じアルゼンチンの作曲家ピアノラは彼に作曲を師事している。彼は2曲のバレエ曲を残したが、「エストアンシア」は農場という意味である。

ロドリゴ/アラソフエス協奏曲

盲目のロドリゴが、マドリド郊外にあるアラソフエス宮殿の美しさを妻のことばから想像して

作曲されたという。ギターは、性能が高い音量に乏しく管弦楽と協奏させることは至難の業だが、この作品はギター独特の奏法を生かし、管弦楽と見事に調和している。ギターのアルペジオの音にのせいで、ホルンが奏でるアダージョ楽章の美しい旋律は、ロドリゴの愛児が亡くなった悲しみから生まれたとも言われている。

シャブリエ/スペイン狂詩曲

平凡な役人生活を捨て、36歳で職業音楽家として世間に認められたシャブリエは、あこがれのスペイン旅行で多くの民謡や舞曲を採譜し、42歳でこの曲を書き上げた。スペイン的な旋律とリズムを巧みに使い、スペイン情緒がたつぷりと味わたる。

ファリヤ/「三角帽子」第一組曲、第二組曲

近代スペイン音楽の代表的作曲家ファリヤは、バレエ曲「恋は魔術師」と共にこの作品の成功で国際的な名声を得た。ディアギレフがロシア・バレエ団のためにファリヤに作曲を依頼したことがきっかけでつくられたこの曲は、スペインの名高い小説家アルコンの小説「三角帽子」をもとにしている。「三角帽子」は、この物語に登場する好色な代官の権力の象徴ともなっている帽子のことである。

森の響フレンドコンサート 札幌名曲シリーズ2013 vol.2 「ヴェルディ200年 vs プリテン100年」

6月8日(土) 15:00

札幌コンサートホール大ホール

指揮/尾高 忠明

チェロ/横板 源



横板 源

プリテン/シンプルシンフォニー

今年、プリテンの生誕100年。9月には「戦争レクイエム」が演奏されるが、それに先駆け今回は初期の傑作が演奏される。プリテンは、早くから天才ぶりを発揮し、少年時代からピアノ・ソナタや弦楽四重奏曲などを作曲していたが、この曲はそうした時期の素材をもとに書かれている。弦楽オーケストラによるこの曲は、「騒がしいブレイク」「おどけたビツイカート」など4楽章からなる耳に馴染みやすい作品である。

ハイドン/チェロ協奏曲第1番

ハイドンは、多くの種類の楽器のために協奏曲を書いている。これは、ハイドンが指揮をしていたエステルハージ家のオーケストラ楽員のために書かれたものが多く、

主要メンバーはこれらの協奏曲を演奏することでやる気を起こしたらしい。そのため、このオーケストラは短期間のうちに高い水準に達した。楽員の特性を生かし、彼らの気持ちをつかむことで集団を高める技は日ハムの栗山監督も顔負け。この第1番は、比較的初期の作品でバロックの痕跡を残すが、高度な技巧が要求される。

ヴェルディ/歌劇「ナブッコ」序曲
歌劇「シチリア島の夕べの折り」序曲
歌劇「椿姫」第1幕への前奏曲
歌劇「ルイザ・ミラー」序曲
歌劇「運命の力」序曲
オペラをドラマ中心の近代歌劇へと移行させたヴェルディは、デビュー作から「ファルスタフ」まで55年の間に28曲の歌劇をつくり、19世紀後半のイタリア・オペラに大きな影響を及ぼした。今回は、彼の代表的オペラの序曲を中心とする5つの管弦楽曲が聴ける。ヴェルディの出世作となった「ナブッコ」は、パピロニア王とその娘との宿命の対決をドラマティックに描き、「シチリア島の夕べの祈り」は、シチリア全島を支配していたフランス王シチアルに夕べの鐘を合図に惹起したシチリア人の暴動をオペラ化している。作者中期の最高傑作「椿姫」は、パリで一番人気の高級娼婦ヴィオレッタの哀しくも美しい熱愛物語。

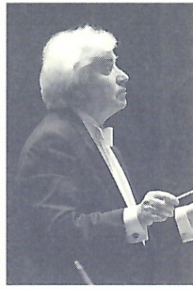
「ルイザ・ミラー」は、老兵士ミラーの娘ルイザと領主の息子ロドルフォとの結ばれぬ身分違いの悲劇的恋物語。「運命の力」は、運命の力に翻弄される人間の悩みと神への祈りを描いた大叙情詩で、その序曲は作曲者が書いた序曲の中で、最もポピュラーな作品である。

第560回札幌定期演奏会

6月21日(金) 19:00
6月22日(土) 15:00
札幌コンサートホール大ホール
指揮/ドミトリー・キタエンコ
ヴァイオリン/ヴィヴィアン・ハーグナー



ヴィヴィアン・ハーグナー (写真: ERM/BBDO)



ドミトリー・キタエンコ (写真: 佐藤雅英)

ベートーヴェン/ヴァイオリン協奏曲二長調

ベートーヴェン唯一のこのヴァイオリン協奏曲は、彼が交響曲第4番などを書いている「傑作の

森」と言われる時期に書かれ、規模、格調の高さ、旋律の美しさから音楽史上の3大ヴァイオリン協奏曲のひとつに上げられている。しかし、初演当時は演奏の評価のみが先行し、作品についてはあまり注目されなかった。この曲が世間に認められるようになったのは初演から38年も経てヨアヒムがメンデルズゾーンの指揮で演奏した時であった。メータ指揮、ペルリン・フィルとの歴史的デビューから20年以上を経たヴィヴィアン・ハーグナーの独奏は大注目だろう。

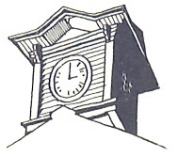
■チャイコフスキー/マンフレッド交響曲
チャイコフスキーは、交響曲と名の付く作品を7つ残したが、「マンフレッド交響曲」は、第4番を完成させた後にバラキエフの依頼により作曲された。ペルリオーズの「幻想交響曲」に匹敵する標題音楽的交響曲の要素が強く、交響詩に分類される。「マンフレッド」は、歴史上実在の人物でシチリア国王として数々の戦いに参加した。そして、バイロンなどが長編詩劇の主人公としても登場させている。チャイコフスキーは、この大曲をかなり苦労して作曲し「第1楽章は喜びを持って書きましたが、その後努力して完成の時は半病人のようでした。」と彼自身の手紙に書いている。

(写真協力/札幌交響楽団)

札幌物語 61

札幌芸術賞受賞(1)

竹津 宜男 (札幌くらぶ会員)



昨年(2012年)私はお陰さまで札幌芸術賞をいただいた。賞の名前が札幌芸術賞なので現在演奏活動を行っていない私が頂いて良いものかと、ちょっととまどったが、周りから同じ立場の後輩のためにも言われて頂くことにした。賞状には「あなたは本市の音楽団体活動において、長年にわたり先駆的な役割を担い音楽文化の発展と向上に尽力され、札幌市の文化芸術の振興におおいに貢献されています。よって札幌芸術賞を贈りその功績をたたえます」と書いてあった。

今から15年ほど前に「道通」(北海道通信社)の道教職員向けの新聞「教育版」でインタビュ・シリーズ「夢を果した男」が始まった、私が第1号に選ばれた。

自分ですらそんな意識が全く無かったので、呼ばれた時「何についてお話すれば良いのですか」とたずねたものである。その時「①札幌交響楽団を全国区にしたこと。②練習場付きの「札幌芸術の森」が出来たこと。③国際教育音楽祭PMF(パシフィック・ミュージック・フェスティバル)が始まったこと。④札幌コンサートホールKitaraが出来たこと。全て竹津さんが望んでいた夢ではなかったですか」と言われた。

幸いなことに私は1961年7月1日に誕生した札幌にホルン奏者として入団して以来13年間ホルン奏者、事務局長の10年間を含め事務局に17年間、PMF(パシフィック・ミュージック・フェスティバル)に15年間、その後は現在までハイメス(北海道国際音楽交流協会)にと一貫して音楽に関わってこれた。

札幌交響楽団の創立楽団員として入団した時の札幌は「60万都市構想」を謳っていた頃で札幌メンパーは身近に市民と接していた。道外から来た楽団員は特に皆さんに親切にしていた。当時、自ら楽隊と称するオーケストラ・プレイヤーは一般的に余り行儀の良いものではなかった。定期演奏会のエキストラとして東京から参加する年配の演奏者達に驚かれた

ほど札幌の団員は周りの目を気にして行儀が良かった上に「全国に通用するオーケストラになった」と団員全員が目標にしていた。10周年目を迎える前の年1970年にペーター・シュヴァルツが常任指揮者に就任した。シュヴァルツのきめ細かい訓練でメキメキ腕を上げ「ジェット機のように急上昇するオーケストラ」と言われた。私は1974年に楽団員から事務局へ移動した。これだけ素晴らしい演奏をする札幌をなんとかして全国区にしなければならぬ、と補助金の増額をお願いや様々な条件で東京の文化庁へ通う度に文化庁自主事業に札幌を取り上げてくれるようお願いしていた。

1981年10月6日の和歌山県有田市から始まる関西方面6都市での「文化庁移動芸術祭」を与えて要望に添えてくれた。

また、同じ1981年には福岡サンパレスホールの柿落としても招待され、創立20周年を迎えて事実上の全国区になることが叶った。翌年には日本で初めての音楽専用ホール「ザ・シンフォニーホール」が大阪に誕生し、この音響の素晴らしいホールで柿落として札幌は思う存分実力を発揮した。

札幌青年会議所(JC)は、「札幌の文化のアイデンティティは札幌交響楽団だ」と謳って「文化都市作りを考える」フォーラムを催してくれた。私は札幌市の将来について思いのたけをしやべらせていただいた。それを受けて札幌JCは「札幌芸術の森」構想を札幌市に提言した。これが実って1986年に「札幌芸術の森」が開園した。

指揮・岩城宏之、ピアノ独奏・安川和子、管弦楽・札幌交響楽団の演奏はモーツァルトのピアノ協奏曲の演奏もさることながら、札幌が演奏するブラームスの交響曲が話題を呼び、その後毎年各地からリクエストが来て続けられた「文化庁移動芸術祭」札幌公演では、しばらく毎年ブラームスの交響曲を演奏することになった。オーケストラにとってブラームスの交響曲の演奏をほめられることはこの上なく名誉なことだった。

また、同じ1981年には福岡サンパレスホールの柿落としても招待され、創立20周年を迎えて事実上の全国区になることが叶った。翌年には日本で初めての音楽専用ホール「ザ・シンフォニーホール」が大阪に誕生し、この音響の素晴らしいホールで柿落として札幌は思う存分実力を発揮した。

「札幌の文化のアイデンティティは札幌交響楽団だ」と謳って「文化都市作りを考える」フォーラムを催してくれた。私は札幌市の将来について思いのたけをしやべらせていただいた。それを受けて札幌JCは「札幌芸術の森」構想を札幌市に提言した。これが実って1986年に「札幌芸術の森」が開園した。



(つづく)

札響東京公演鑑賞ツアー

3月5日〜7日（2泊3日） 帝国ホテル泊

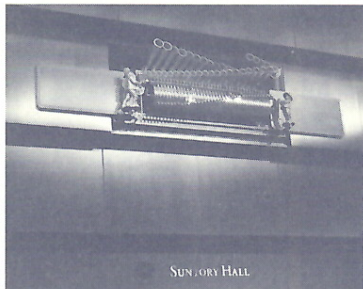
札響サウンドが東京に響いた日

毎年、ホクレンクラシックスペシヤルという名の札響東京公演が行われている。ずっと気になっていた。わが札響は東京の耳が肥えているであろうクラシックファンにどのようを迎えられているのだろう、それに何よりも東京公演を間近で応援したい、行きたい！……ということで『東京に行つて（までも！）札響を聴いてみたい人のためのツアー』を計画してしまつた。

3月5日（火）総勢10名がサントリホール前の広場に集合した。暖かくなってきた東京とはいえ、日が落ちてからの屋外はやはり寒い。ホール前がある素敵な噴水の滝音がなおいっそう強くそれを感じさせる。



上/サントリホール前にて、右/夏山さん、金子さん、左/からくり人形



早く来すぎたことを少し後悔し始めたころ、ファゴットの夏山さんを見つけた。こんなところで会えるなんて！嬉しくてさっそくご挨拶。ゲネプロを終えたあとと自由時間が再び会場入りするところだという。楽しみにしています！とお見送りしたら、そのあとでもコンマスの大平まゆみさんを始めた。

めたくさんの楽員さんにお会いすることができた。思いがけないブレゼントをいただいた気分だ。午後6時半、ドアの上の小さな扉が開いた。からくり人形がかわいいメロデーを奏でて開場を知らせてくれる。どことなくヨーロッパのコンサートホールを感じさせるホワイエを通り抜け、ホールに入る。キタラホールと同じワインヤード形式のホールで客席数も2006、正面に素晴らしいバイオルガンがあるのも同じだ。ただキタラは曲線を生かした木のホールだが、ここは大理石と直線を生かした重厚な雰囲気で印象はかなり違う。

出足は遅かったが、開演10分前には次々と客席が埋まっていく。今日のプログラムは札幌での3月定期と同じ、シベリウスのフィンランディア、交響曲第3番、そして一番。札幌と同様に拍手が続く中、次々とステージに上がってくる楽員さんたちの表情がこころなしかいつも以上に輝いて見える。いよいよだ。フィンランディアが金管の重厚な響きで始まる。そしてあの美しい旋律が流れたすころには会場はすつかり美しい札響サウンドで満たされ、1曲目から早くも「ブラボー！」と大きな声がかかる。そして盛大な拍手。東京で札響を待っていた方たちの大きな期待に十分にこたえた演奏だったのだなとわかる。

交響曲3番最後の一番も素晴らしい。キタラの響きとは少し違う印象だったが、クラリネット、ホルン、チェロ、ヴァイオリン：それぞれ美しい音が確かに響きあい、旋律がうねりとなってくつきりと浮かび上がる。演奏する楽員さんたちの体も大きくうねり、曲はドラマティックに熱を帯びる。4楽章が終わり尾高さんの手がぴたっと止まる。振り上げられた弓も、ステージの上の動きもぴたりと止まり、ここにいるすべての人々の呼吸が一つになる。ホールが静寂という音で満たされる。そして静かに静かに尾高さんの手が下ろされると、万雷の拍手が鳴り響きブラボーが繰り返された。

尾高さんのご挨拶のあと、アンコールにエルガーの弦楽セレナードがしつとりと演奏された。それでもやまない拍手に、尾高さんがおやすみなさいのしぐさをされて今夜の熱いステージは終了した。来てよかった。満ち足りたひと時だった。

外に出るとまだ滝が大きな水音を立てていた。それはまるで今夜の札響の演奏への拍手のようにいつまでも響いていた。（静）

美術館とスカイツリーの日

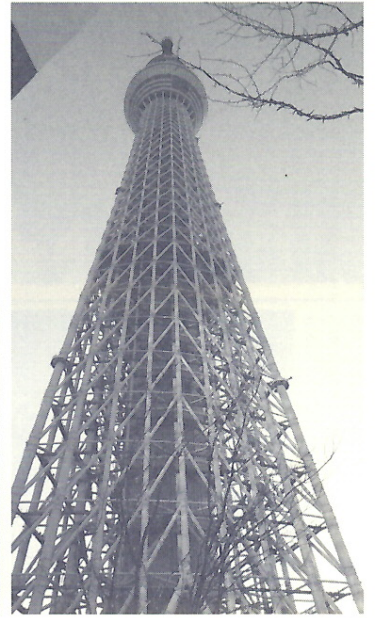
2日目、今日は一日観光の予定。折角東京に行くのだからと、スカイツリーは5時に予約したので、それまではフリー。美術館も行きたい、新しくなった東京駅も見たいと夢はふくらむ。でも結局、宿が帝国ホテルということもあり、東京駅近辺にしほることにした。東京はもう春。気温も20度近くなるという。まず、ホテルから徒歩で、三菱一号館美術館へ向かう。ここで「奇跡のクラックコレクション」展を見る。丸の内のオフィシャルビル街に明治時代の姿そのままに復元された美術館。そこに今、世界中の印象派愛好家が一度は見たいと憧れるコレクションが日本に初めて来ているのだ。ルノワール、マネ、モネの今まで眼にしたことのない作品をじっくりと堪能することができる。

お昼はこのカフェで。優雅な雰囲気、気分も上々。元気が出たところで次は東京駅へ。写真を撮る広場があるのが嬉しい。全景を眺め、北口、南口それぞれのドームを仰ぎ見、ステーションホテルのロビーにもついでにお邪魔し、



写真右/昼食をとった三菱一号館美術館のカフェ、左/開演当時大正年代の姿に復元された東京駅、レンガが美しい

八重洲口へと向かう。目指すは、ブリジストン美術館。印象派から抽象絵画までの「点・線・面」のテーマでコレクション展を開催している。向かっている途中の金券ショップで入場券が450円（通常800円）で売られているのをメンバーの1人が目ざとく発見。即購入する。ここでも、ルノワールやセザンヌ、ゴーガンなどの作品を堪能。あつという間に時間が

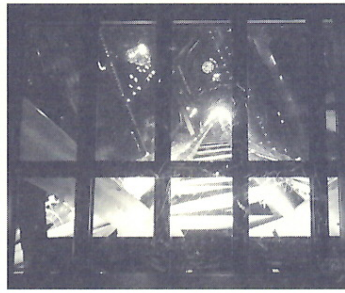


過ぎる。次に予定していた高島屋の「杉山寧展」は断念してティールームで一息いれることにした。

いよいよ次は、都営浅草線でスカイツリーへ。平日とはいえ大勢の人人人。真下から見ると本物のスカイツリーは高すぎて尖塔が見えない。当日券目当ての行列を横目に、予約してあるのでスムーズにエレベーターに乗ることができた。

天望回廊入場券も購入し、一気に上まで行く。信じられない高さだ。ふわふわと浮いている感じがする。富士山までは見えなかったが、さすがの眺望。オレンジに輝く夕日を見、街にネオンが点くまで粘り、美しい夜景を目に焼きつけてから、ようやく地上に降りた。こんな素敵な一日を過ごすこと

写真右/そらまち4階テラスから望んだスカイツリー、中右/新宿高層ビル群の向こう沈む夕日、手前中ほどは東京ドーム、中左/第一展望回廊のガラスの床から真下を見る、左/ライトアップされたスカイツリー



ができたのも札幌のおかげだ。これを毎年の恒例行事にしてもいいかも...と思いは始めている。(み)

札幌くらぶ東京交流会

東京都交響楽団サポーターの「都響倶楽部」と交流ができました。今回は、札幌くらぶ8名と東京在住メンバー相内さん、三上さんとともに東京都交響楽団サポーターの「都響倶楽部」の代表の篠原俊彦さんと前代表の村上邦彦さんにも参加していただき、「札幌くらぶ東京交流会」をレストラン東洋日本橋店で開催することができました。

東京都交響楽団は、東京オリピックの記念文化事業として東京都が1965年に設立。森正、渡邊暁雄、若杉弘、ガリー・ベルティニら歴代の音楽監督のもとで、日本を代表するオーケストラとして発展し、現在はプリンシパル・コンダクターにエリアフ・インバル氏、レジデント・コンダクターに小泉和裕氏が就任され活躍中です。都響倶楽部の自慢は「インバル・マラーシエリズ」で大好評を博していることだそうです。さらには、札幌のファーストコンサートと同様に都響が行っている音楽鑑賞教室のことが話題になりました。都内の小中学校を主な対象と



東京交流会に参加した左から相内さん(首都圏)、上野さん、西川さん、村上前都響倶楽部代表、篠原都響倶楽部代表、鈴木さん、中居さん、定政さん、井上さん、三上さん(首都圏)、武藤さん

して年60回以上の音楽鑑賞教室を行っており、児童・生徒・教員の皆さんから好評を得ているそう、フルオケで音楽監督等が担当し都響創立以来の施策だそうです。話も尽きなく、2013年度第7回JOFCC仙台総会でお会いできることを願って暖かい東京日本橋でのひと時でした。「都響倶楽部」のお二人と準備いただいた東京在住札幌くらぶメンバーに感謝します。また、来年も東京で!

(西川)

随想 本棚の隅から 3

ミュゼット
夜の音楽
狩り

雪の砦の中で冬籠りを余儀なくされた日々、本棚を物色していると年号のわからない小さなプログラムを見つけた。
白かった表紙は薄汚れ中も黄ばんで、まったくゴミ寸前の様相を呈している。
(挟んであった新聞の切り抜きは茶色になっている。)

1972年までの経歴が載っているので多分72年だろうと思うが...?
道新社会福祉振興基金造成
5月10日(金) 札幌市民会館
館野 泉ピアノ・リサイタル
ブラームス・シューマンの主題による変奏曲作品9
リスト・ソナタ口短調
グリーグ・抒情小曲集から「アリエッタ(第1集)」
ちようちよう(第3集)
春に寄す(第3集)
羊飼いの少年(第5集)
ノルウェー農民行進曲(第5集)
こびとの行進曲(第5集)
夜想曲(第5集)
トルロドハウゲンの婚礼の日(第8集)

北欧のピアノの詩人と云われフィンランドに住む彼は前半は燕尾服だったが、第2部に着ていた胸に民族刺繍をした白いシャツがとでも似合っていた、ダンディなロマンチストの雰囲気漂わせて。グリーグの小品は北欧の冷涼な空気を音に込めたように、ひたひたと心に沁みだ。
私がスカンジナビアを夢想し、フィンランドと云う国を強く意識したのがこのリサイタルだった。それから何度か彼のリサイタルを聴きに行った記憶がある。プログラムが無いけれどヤナーチェクを初めて聴いたのは彼の何度目かのリサイタルだったのは確かだ。
館野泉さんが2002年脳出血で右手が不自由になったというニュースを読んでとても残念に思ったのも束の間、2008年の札幌定期514回に登場して、円熟したというより、貫録十分の姿を見て(聴いて)感慨を覚えた。
叶うなら、かれの両手の指先からこぼれる、ヤナーチェクの「草かげの小路にて」をもう一度聴きたい。(麗)

東京都交響楽団に参加した左から相内さん(首都圏)、上野さん、西川さん、村上前都響倶楽部代表、篠原都響倶楽部代表、鈴木さん、中居さん、定政さん、井上さん、三上さん(首都圏)、武藤さん

舟歌

ミニコンサート

in Steinway Studio

金子 亜未さん (札幌オーボエ首席奏者)

2月27日の寒い日、病み上がりでしたが元気だったので、これも納車2日目の新車で出かけました。チケットを買って入場するときに、札幌くらぶを名乗り、会報に乗せるため写真撮影の許可をとっておきました。

今日は、札幌首席の金子亜未さんのオーボエと新堀聡子さんピアノのアンサンブル、着いたときはスタジオはまだ人が半分くらいでしたが、演奏が始まるころにはほぼ埋まり、定刻より少し遅れてコンサートが始まりました。

最初は、ガエターノ・ドニゼッティのオーボエソナタ、次は、ロベルト・シューマンの3つのロマンス作品94、前半の最後は、エンニオ・モリーコネの映画「ミッシェン」から「ガブリエルのオーボエ」、休憩後の後半はサン・サーンスのオーボエソナタ二長調作品166です。

1曲目を終えた後オーボエの説明と音を出すリードの話がありました。金子さんは葦の茎を材料にして自分に合うよう、自分で加工しているそうですが、これが結構手間がかかり練習時間より加工に



使う時間の方が多いかもしれないということで、オーボエ奏者に共

岩佐 朋彦さん (札幌ホルン副首席奏者)

3月30日、岩佐朋彦さんと新堀聡子さんピアノのアンサンブルを聴きに井関楽器に行きました。スタジオはすでに中学生でしょうか、かなりの席を埋めていました。開演のころになると椅子が足りなくなり、補充されていましたが、それでも立つ人が出てきて、さらに補充されました。

コンサートは、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトのホルン協奏曲第一番二長調K419、出だしから、アツ、聴いたことある、と思いました。2曲目は、フランツ・ヨーゼフ・シュトラーウスの主題と変奏 Op.18、3曲目

通することのようです。

さて、演奏ですがオーボエという楽器は低音で、かほせい音色で、他の楽器と一緒に演奏することで発揮する楽器と想っていました。ところが、体を左右に揺らせながら金子さんから出てくる音色はある程度の高音まであり、それなりの音量があるのです。たぶん前段で説明していただいた、自分に合わせて作るリードにあるようですが、改めてオーボエという楽器の魅力を知りました。

アンコール曲は、NHK連続テレビ小説「あすか」の主題歌「風笛」でした。約40分の演奏、十分に楽しませていただきました。

はウジェーヌ・ジョゼフ・ボザの森にて、初めてきく曲ですがピアノから水が湧き出るような音色の演奏が聴こえました。

ここで新堀さんから、ホルンとの共



演は今回が初めてで、3日前から練習してきました。また、ホルンは管楽器の中で一番難しい楽器だということも知った、と紹介、それに合わせて岩佐さんが使っているホルンを説明、

札幌コンサートホール15周年 Kitara弦楽四重奏シリーズ

New Kitara ホールカルテット 6th Concert を聴こう

2013年2月13日、札幌コンサートホール小ホール

Kitara 小ホールは、弦楽四重奏を極上の音楽として堪能させてくれる場所であることを、今回のコンサートで改めて実感させていただきました。よくよく考えられた音響設計の結果であろうと感じさせられます。

特に私の勝手な好みですが、2階席右側ステージ近くの1人席は、ホール全体に広がる弦楽器の響きの中に我が身を投じて陶酔感に浸ることが出来ます。

当カルテットは、前回からのメンバー、大森潤子さんの加入で、きめ細かな音楽作りと共に一層の艶やかさと優しさを感じました。昨年、北星大学チャペルでのバツハ無伴奏ヴァイオリンソナタ連続演奏会を聴いて以来、大森さんの艶やかな音色に惹かれて、New Kitara ホールカルテットにも足を運びましたが、従来メンバーの伊藤亮太郎さんのヴァイオリン、廣狩亮さんのヴィオラ、石川祐史さんのチェロという当代一流の名手とともに見事なアンサン

実際に音だしもしくれました。最後の曲は、ボリス・アニシモフのポエム(詩曲)、ホルンの音色がミュートで時々変わります。そしてアンコール曲、ガラスノ

フの夢 Berceuse Op.24b でした。会場出口に、岩佐さんと新堀さんが皆さんをお見送りして下さりました。ありがとうございました。(武藤)

当社の政権圧力の元で「作られた」交響曲のイメージが強い作曲家ですが、今日の弦楽四重奏曲第11番は、短いながら全7楽章が切れ目なく演奏される単純にして明快な曲でした。プログラム解説のとおり、不本意な交響曲から解放されたシヨスタコヴィチの作曲家としての素直な感情が表れたものと納得いたしました。

アンコールでは大森さんのスピーチで、プログラム3曲が全て「短調」だったので、ハイドン作曲の「長調」の弦楽四重奏曲「鳥」が、曲名タイズとして演奏され、まさにカルテット堪能の一夜となりました。(驚頭隆)

札幌くらぶML登録アドレス募集

札幌くらぶ会員専用メーリングリスト (ML) へのメールアドレスの登録を募集しています。

MLは、札幌くらぶの「おしゃべりROOM」などの電子掲示板のようなWeb形式と違い、メールアドレスを登録しないと利用できないようになっている会員専用の電子メールですので、迷惑メールなどが送信されることは少ない、安全なメールの利用方法ですので、安心してご利用ください。

札幌くらぶでは演奏会のお知らせなど、このMLを会員同士の情報交換、交流の場として多くの会員の方々に利用いただきたいと願っています。

MLに、新たにメールアドレスを登録される会員を募集いたしますので、次のメールアドレスに「MLに登録希望」と題名に入力し、通信欄に会員番号、氏名を入力して送信してください。

info@sakkyoclub.net

受信後、MLに登録し、利用方法を返信いたします。多くの会員の方々が登録されるようお願い申し上げます。

また、入会時に会員名簿に登録させていただきましたメールアドレスは、自動的にMLに登録させていただきます。

2月及び3月の札幌定期演奏会を聴いて

2月の定期は楽しみ半分心配半分で出かけた。

現代音楽の新曲を聴かなくなつて久しい。2000年になってから10年間ほど、或る大学の作曲科の教授が主催する、彼らの新作の初演を聴きに行っていた。現代音楽はとても素敵な曲もあれば、どうにも落ち着きの悪い時もあるので、世界初演の交響曲なんてどんな曲なのだろう? 「こけおどしななお腹がよじれそうな曲でなければいいのだけど」なんて思ったのは氏に失礼だった。セーゲルスタムの交響曲24番は心に響いた。最近新しいものを渴望していた私の魂が共鳴し、全身の細胞が音の栄養を吸つたような満足を感じた。また、誰も、曲の終わりを知らないで、たつぷり余韻に浸れたのがとても良かった。

3月はシベリウスシリーズ、「フィンランディア」が鳴り出したとたん「あー」と、ビールを一口飲んだ時のように体の中で叫んだ。シベリウスがこんなに素敵なのに、気付かず過ごしてきた若いころが勿体ない。心の琴線に触れてシヨットしたようだ。東京公演に追っかけて行かずにはいられなかった。サントリーホールでは団員の皆さん輝いていましたね。

私の東京行きは「クラーク・コスタッフの活動報告(平成25年1月〜3月)」を覗くのが第一の目的だったが、こんな楽しい東京の3日間を、しかも帝国ホテルに泊まって過ごすなんて、「札幌くらぶ」ってホントに楽しい会ですね。(中婆)

業として、石山中学校18名を招待、送迎バスは(株)そよかぜ観光が担当しました。

●札幌東京公演鑑賞ツアー実施
3月5日(火)から7日(木) 帝国ホテル宿泊
担当/武藤事務局長他7名参加
5日の東京公演鑑賞、6日の三菱美術館、ブリジストン美術館での特別展鑑賞、スカイツリーからの東京の夕日と夜景を見てから首都圏会員、都響倶楽部との交流会開催、7日は各自自由行動などを旅程としたツアーを実施しました。

●第11回札幌くらぶ運営会議開催
3月27日(水)
札幌コンサートホール2階大会議室
担当/武藤事務局長他13名出席
「平成25年札幌くらぶ総会について」「札幌くらぶサロンについて」「市内中学生定演招待について」について協議しました。

●札幌東京公演は迫力あったなあ。ホール入口でコンマヌや楽員さんたちとお会いできて熱い支援ができたかな。札幌くらぶ首都圏会員と交流ができ、ビールが一段とおいしかった!(よし)

編集後記

●札幌東京公演は迫力あったなあ。ホール入口でコンマヌや楽員さんたちとお会いできて熱い支援ができたかな。札幌くらぶ首都圏会員と交流ができ、ビールが一段とおいしかった!(よし)

●札幌東京公演は迫力あったなあ。ホール入口でコンマヌや楽員さんたちとお会いできて熱い支援ができたかな。札幌くらぶ首都圏会員と交流ができ、ビールが一段とおいしかった!(よし)

札幌くらぶ会員証の特典

- 札幌交響楽団のチケット
札幌交響楽団主催の定期演奏会、及び名曲シリーズのチケットが10%割引(名曲シリーズはS席のみ)で、次のチケットセンター、プレイガイドで一般発売日より購入することができます。購入される際に会員証を提示してください。
- Kitara チケットセンター
- 大丸プレイガイド
- 道新プレイガイド
- 平成24年度の価格(参考)
- 定期演奏会(カッコ内は定価、学生席の割引はありません)
- S席 4,500円(5,000円)
- A席 4,050円(4,500円)
- B席 3,600円(4,000円)
- C席 2,700円(3,000円)
- 名曲シリーズ(S席のみ、カッコ内は定価)
- S席 3,600円(4,000円)
- テラスレストラン・キタラ
店内での飲食が10%割引となります。ただし、一部の商品を除くことがあります。お支払いの際に会員証を提示してください。
- ダイニング「イル・ネージュ」(北区北12条西1丁目北12条パークマンション1F)
札幌くらぶと申し出て会員証を提示してください。シェフからの素敵な特典があります。ご予約・お問合せは、717-2555まで。

●札幌東京公演は迫力あったなあ。ホール入口でコンマヌや楽員さんたちとお会いできて熱い支援ができたかな。札幌くらぶ首都圏会員と交流ができ、ビールが一段とおいしかった!(よし)

●札幌東京公演は迫力あったなあ。ホール入口でコンマヌや楽員さんたちとお会いできて熱い支援ができたかな。札幌くらぶ首都圏会員と交流ができ、ビールが一段とおいしかった!(よし)